

改善するユーロ圏経済と上昇する通貨ユーロ

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

今年6月、ECB(欧州中央銀行)のドラギ総裁が講演で、将来的な量的緩和縮小を示唆して以降、ユーロ相場の上昇が続いています。

同総裁の発言の背景には、ユーロ圏経済の持ち直しがあります。2017年4-6月期のユーロ圏GDP成長率は、前期比0.6%増、前年比2.2%増と成長が加速しました。域内最大の経済大国であるドイツで景気拡大が続いたほか、スペインやフランス、オランダでも力強い成長となりました。消費動向をみると、雇用環境の改善などを背景に、小売売上高はドイツやスペインを中心に伸びが加速しているほか、企業生産動向については、ドイツをけん引役に主要国全般で、鉱工業生産が好調を維持しています。また、かねてより懸念されていたギリシャ問題については、ユーロ加盟国を金融支援するESM(欧州安定メカニズム)の支援の下で進めた、財政緊縮策などにより財政状態が改善傾向にあります。

こうした回復を背景に、今年12月末に期限切れとなるECBの量的緩和の縮小観測が浮上しており、8月25日の米ジャクソンホールにおけるドラギ総裁の講演が注目されていました。ところが、講演で同総裁は「世界経済の回復は順調に進んでいる」とし、自由貿易や金融規制の重要性について述べるにとどめ、ECBの量的緩和縮小について具体的な発言はありませんでした。ただし、ユーロ高をけん制する発言がなかったことから、その後の為替市場ではユーロが主要通貨に対して強含む展開となりました。

先日公表された7月のECB理事会議事録では、量的緩和縮小観測を受けたユーロ高への懸念が明らかになるなど、これまでのユーロ高による景気や物価への悪影響が警戒されています。しかし、景気の先行きを示すとされるユーロ圏総合PMI(購買担当者景気指数)は堅調に推移しており、今後の底堅い経済成長が示唆されています。こうしたことから、量的緩和縮小は、景気や物価の動向を踏まえつつ、慎重ながらも着実に進められるとみられ、ユーロ相場の押し上げ要因になると期待されます。

ユーロ相場(対円、対米ドル)の推移



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

ユーロ圏実質GDP成長率の推移



ユーロ圏総合PMIの推移



日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。